

次代を担う企業

～シリーズ①～



株式会社 極光

代表取締役社長

渡部 慶 哲

3年前の東日本大震災の日、私はパナソニックフェアに参加していました。

その日突然襲った大きな揺れ、電気の止まった暗闇の街、エネルギーの無い不安。エネルギーの必要性。その体験が今にして思えば再生可能エネルギー関連会社設立の原動力になったと思います。

新会社「株極光」は株ワタナベデンキのグループ会社として平成25年6月、資本金一千万円、再生可能エネルギー事業（太陽光、風力、バイオマス等）を扱う会社として設立。

計画面積、3万4千394平方メ

ートルに、東北でも初めてとなる秋田杉を使った木製架台に、太陽光パネル6千384枚を設置。環境負荷の少ない秋田杉を架台とした大規模ソーラーとしては、東北初となる発電所です。農振除外等の壁もありましたが、現在、三種町森岳上台にメガソーラー発電所（ソーラーガーデンみたね）として8月よ

り東北電力に売電開始しました。再生可能エネルギー事業は、社会奉仕性の高い事業なので、地域活性化を考慮しながら力を入れていきたいと思っています。又、進化するテクノロジーを見極め、有効活用し、時代の追い風に乗り、町の再生可能エネル



6,384枚のパネルを設置したメガソーラー発電所

ギー事業のパイオニアとして、もっと大きなエリアで躍進出来る様努力してまいります。最後に「極光」という社名は、私の妻の祖父（91歳）に付けてもらいました。戦争、大震災を体験した方から貰った名前です。三種町の皆さん、共に頑張りましょう。

編集後記

三種町の議会議員が今年の7月に改選になり、議会広報をつくる役割の編集委員も新たに編成されました。

編集委員は私を含めて6人です。

今回の35号はその新メンバーによる最初の広報です。

特に、今回の紙面の特徴は、7月に行われた「町民と議会との懇談会」で出された町民の方々の意見や提言、要望などと、それに対する議会側と町の回答内容を載せたことです。

懇談会は、議会としてははじめての取り組みですが、それぞれの地域に密着した問題についての住民の方々の意見交換を通じ、議員としての役割と責任の重さを改めて認識する機会となりました。

広報の紙面づくりの経験は多くはありませんが、「読みやすく、わかりやすく」を目標にスタツフ一同研鑽を積んで行きたいと思えます。

秋の穫り入れも終わりに近づくにつれ、寒さも足早になってきました。

皆様、どうかご自愛のほどを。

清水 欣也 記

